

088

contents

常設展  
コレクション101  
平成15年度 展覧会予告  
年間スケジュール

# 天花

TENGE



福田勝治「光りの貝殻」1949年 山口県立美術館蔵

## 常設展

小林和作室・資料展示室

## 「福田勝治」

5/27 tue ~ 7/6 sun

## 表紙作品解説

福田勝治「光りの貝殻」1949年  
ゼラチン・シルヴァー・プリント 40.5×31.9cm 山口県立美術館蔵

「女体はここではモチーフですよ。女体のもっているやさしさ、なめらかな線はほかのものでは出せないで、大切ですね。それから目を閉じているのも瞑想的でいい」とは、福田勝治(1899-1991)自身による作品解説である。

昭和21年、復刊もない『カメラ』誌上においてヌード写真を発表した福田は、その後『裸婦五態』(1946)、『人体頌歌』(1947)、『花と裸婦』(1947)といった写真集を立て続けに出版、復興期の写真界にヌード写真の新境地を示した。猥雑なヌード写真がいわゆるカストリ雑誌とよばれる出版物に掲載されて氾濫し始めた時代状況のなかで、それとはまったく異質な福田の写真集でさえもが発禁処分をうけるというような事態もおこったが、彼が表現しようと意図したものは、決して量感あふれる生々しい女性の肉体やその官能美というわけではなく、光と影の対比によっていっそう鮮やかに浮かび上がってくる女性のフォルムの優美さであり、その優美さからのみ導き出されるような精神性であった。(当館学芸員 河野通孝)

## 小林和作室・資料展示室

## 「西野新川」4/1~4/20

師である松林桂月より受け継いだ南画の技法を基礎に独自の花鳥画の世界を展開した宇部市出身の日本画家西野新川(1913~)。この度山口県に寄贈された7点の作品を含む9点を紹介します。

## 「福田翠光・制作の秘密」4/22~5/5

京都画壇における官展系日本画家の重鎮として活躍していた福田翠光(1895~1973)。1枚の作品を描くためには何枚ものスケッチが重ねられます。普段はほとんど見る機会がない花や動物、鳥などのスケッチや下絵を通して福田翠光の作品制作の秘密を探ります。

## 「学芸員のイチオシ」5/7~5/25

当館学芸員それぞれが週替わりで作品を選び、その魅力を語ります。



西野新川「懐壁」1962年 山口県立美術館蔵

福田翠光「群鶴」1959年  
山口県立美術館蔵

## 郷土工芸室

## 山口の伝統工芸 6/10~7/6

日本伝統工芸展50年記念展に併せ、山口の伝統工芸作家の作品を紹介します。

堀尾信夫 赤間硯「長方研」1998年  
山口県立美術館蔵

## 香月泰男室

## 「シベリア・シリーズ」4/1~7/6

三隅町出身の香月泰男(1911~74)は、シベリア抑留を経験し、復員後その重い体験を「シベリア・シリーズ」として描き残しました。応召から復員までを12点の作品で紹介합니다。



香月泰男「別」1967年 山口県立美術館蔵



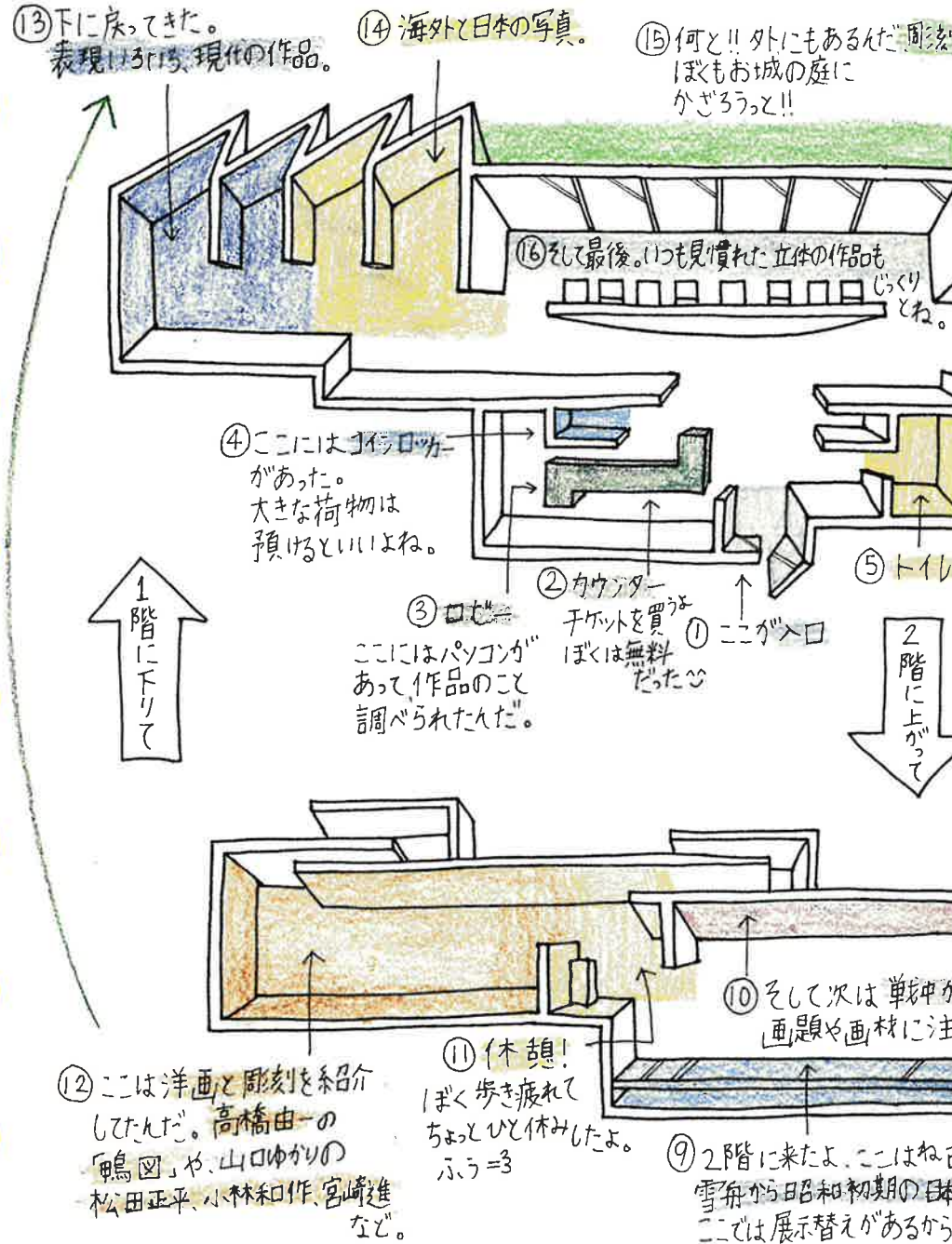
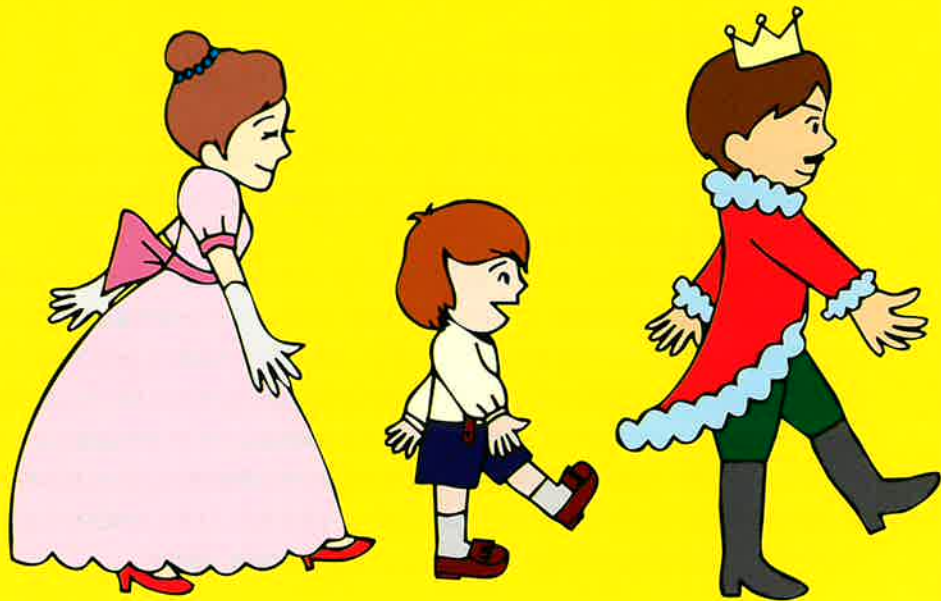
# コレクション101

## ●雪舟から現代美術まで美術館の作品101点を一挙大公開●

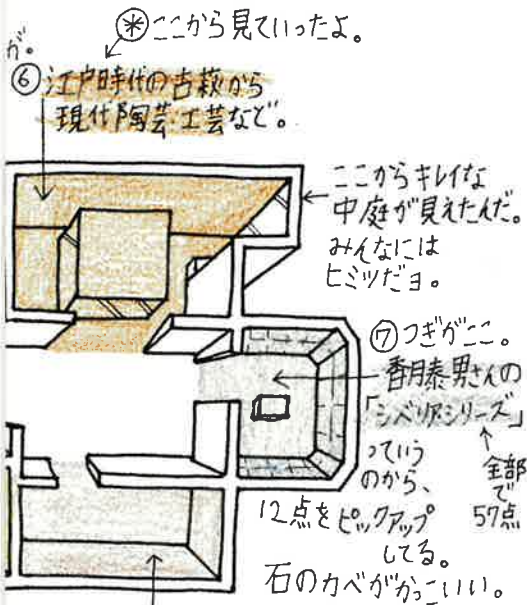
1979年に開館した山口県立美術館は、来年で開館25周年を迎えます。美術館の活動の要となる作品の収集は1973年から始まり、現在までの30年間で3,300点を超えました。雪舟・香月泰男・萩焼を始めとしたコレクションは通常年4回、写真は8回展示替えをしています。なかなか紹介しきれぬものではありません。そこで、今回は美術館の展示室を使い、美術館のコレクションから101点を選んでご紹介します。

いつも見慣れた作品、久しぶりに会う作品、時代もジャンルも超えて101点もの所蔵作品が一堂に会する機会はありません。この機会に作品の新たな魅力を見つけてください。

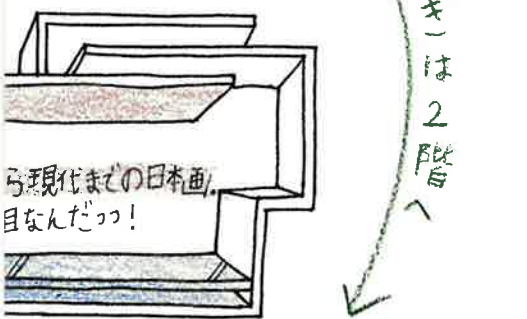
ある日王様から「コレクション101」展の話を書き、美術館に行きたくて仕方のなかった王子様。そして今日、ついに山口県立美術館に連れて来てもらいました。美術館の人や王様の話を聞いては、熱心にメモをとっているようです。どれどれ…なかなか詳しく書いてありますね。それではちょっと王子様のノートを見せてもらうことにしましょう。







⑧ ここおもしろかったなあ。  
 4月22日から5月5日までは「福田翠光：制作の秘密」で、5月7日から5月25日までは「学芸員のイチャシ」をやってるんだ。これは毎週展示替えをやるんだよ。楽しめたよね。



いい作品。だってガラスの中だったよ。画。ぼく生まれる前だよ。すごいなあ。注意しないと!!



4月22日から5月5日までは、第一常設展示室内【小林和作記念室】【資料展示室】で福田翠光の作品と下絵を展示します。

画家は、作品を制作する前にスケッチを繰り返し下絵を制作します。通常私たちの目にふれることのない下絵ですが、そこには画家の制作過程が残っており、大変興味深いものです。数多く残された下絵を通して、画家の絵画制作の秘密をさぐります。

5月7日から25日までは、「学芸員のイチャ押し」と題して、毎週学芸員が交替で作品を紹介します。

ロビーでは美術作品デジタル化計画の一環として美術館の所蔵作品100点の画像と作品データを公開します。ロビーに設置したパソコンで、自由に作品の検索・閲覧をしていただけます。

会期中展示替を行います

前期 (4/15-5/5)	後期 (5/7-5/25)
雪舟等楊『山水図巻』	雪舟等楊『牧牛図』
狩野芳崖『八臂弁才天』	狩野芳崖『懸崖飛沫図』
雲谷等益『瀟湘八景図』	狩野松栄『花鳥図屏風』

● ボランティアによるギャラリートーク  
 会期中の水・土曜日 14：00より

● 親子ギャラリートーク「美術館でおさんぽ」  
 4月26日(土)・5月17日(土) 11:00～12:00  
 対象：小中学生と保護者(子どもだけの参加も可)  
 定員：各日10組(先着順)  
 ※往復はがきに参加希望日、参加者の名前、住所、電話番号、年齢をご記入のうえ、山口県立美術館までお申し込み下さい。

## コレクション101

● 雪舟から現代美術まで美術館の作品101点を一挙大公開 ●  
 2003年 4月15日(火) - 5月25日(日)  
 開館時間 / 9:00 - 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 / 月曜日 (ただし5月5日は開館、6日に休館)  
 観覧料 / 常設展観覧券で御覧いただけます。  
 一般190(160)円・学生120(100)円 ( )内は20名以上の団体料金  
 ※18歳以下70歳以上および高等学校、盲・聾・養護学校に在学する方等は無料  
 主催：山口県立美術館

山口県立美術館 〒753-0089 山口市亀山町3-1 tel:083-925-7788  
 design 福井さやか

平成15年度 展覧会予告

## 6/13(金)～7/6(日) 日本伝統工芸展50年記念展 「わざの美」

戦後の美術工芸の発展に大きな役割を果たしてきた「日本伝統工芸展」は、今年で50年目を迎えます。同展は、全国の工芸作家の発表の場として、伝統技術の継承のみならず、新技法の研究も促進し、重要無形文化財保持者(人間国宝)を含む近代工芸史に重要な位置を占める優れた作家を輩出してきました。この展覧会では、この50年を振り返り、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・その他七部門の伝統工芸の精華を紹介します。



富本憲吉「色給金銀彩飾壺」 京都国立近代美術館蔵

## 7/18(金)～9/7(日) フィンランドの美術 —神話が息づく自然の国—

フィンランドには「カレワラ」という有名な民族叙事詩があります。日本でも戦前からいくつかの本に翻訳されて、広く読まれてきました。今回の展覧会では、その「カレワラ」をキーワードに、19世紀から現代までのフィンランド美術の流れを紹介します。出品点数は、油彩画、版画、写真、ビデオ、インスタレーションなど85点を予定しています。神話が今なお息づく自然の姿を表現した作品の数々。ぜひこの機会にご覧下さい。



エーロ・ヤーネフェルト「コリの秋の風景」1910年  
 ラハティ美術館蔵

## 12/19(金)～2004/2/1(日) 日本近代洋画への道 —山岡コレクションを中心に—

江戸から明治へと移り変わる時代は、政治的にも文化的にも大きな転換期であり、美術の世界でも油彩画の流入という画期的な出来事が起こりました。このたびの展覧会では、明治期の美術界において新たな局面を開こうとした先駆的な画家達の作品を収集して名高かった「山岡コレクション」から、日本洋画の父ともいえるべき高橋由一をはじめ、草創期の画家約70名による作品約170点を紹介し、日本近代洋画誕生の時代を振り返ります。



高橋由一「鮭図」  
 1879-80年  
 笠間日動美術館蔵  
 山岡コレクション

# 2003-2004

## schedule

山口県立美術館 平成15年度年間スケジュール

常設展

特別展

4	4/15~5/25 <b>コレクション101</b>
5	
6	6/13~7/6 <b>日本伝統工芸展50年記念展</b> 「わざの美」
7	
8	7/18~9/7 <b>フィンランドの美術</b> —神話が息づく自然の国—
9	
10	10/2~10/19 第7回やまぐち県民文化祭 <b>第57回山口県美術展覧会</b>
11	11/11~11/30 山口朝日放送開局10周年記念 生誕250年 旅する女流文人 田上菊舎
12	12/9~12/14 第56回学校美術展覧会
1	12/19~2/1 <b>日本近代洋画への道</b> —山岡コレクションを中心に—
2	2/5~2/8 山口県立大学卒業制作展 2/12~2/15 山口大学卒業制作展 2/19~2/22 山口芸術短期大学卒業制作展
3	

4/1	(工芸) コレクション101	西野新川	4/20
4/22	シベリアシリーズ コレクション101	福田翠光・制作の秘密	5/5
5/7		学芸員のイチオシ	5/25
5/27			
6/8			
6/10			
6/10	山口の 伝統工芸	福田勝治	
7/6			
7/8			
	古萩展 シベリア・シリーズI	東松照明 永地秀太の世界	8/24 8/26
		木村伊兵衛	
10/5			
10/7			
	戦後日本画の変革	10/28 雪舟と雲谷派	濱谷浩
	萩の茶陶 シベリア・シリーズII	11/30	11/30 12/2
			小島一郎
1/12			
1/14		桂ゆきの世界	石元泰博
	前衛陶芸 現代の木彫		2/15
		2/17 松林桂月の 世界	奈良原一高
4/11		4/11	

## Information

### ■休館日

月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)  
年末年始(12月28日~1月3日)

### ■開館時間

9:00~17:00(入館は16:30まで)

### ■料金

常設展: 一般190(160)円 学生120(100)円

( )内は20名以上の団体料金

特別展: 別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、  
盲・聾・養護学校に在学する方等は無料。

教育文化週間11月1日~11月7日は全ての方が無料。

山口県立美術館  
The Yamaguchi Prefectural  
Museum of Art  
〒753-0089  
山口市龜山町3-1  
TEL: 083-925-7788  
FAX: 083-925-7790

<http://www.pref.yamaguchi.jp/kenbi/index.htm>

